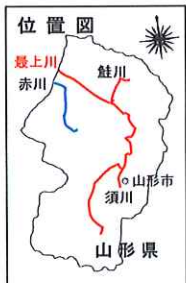


最上川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～地形特性を踏まえた河川整備と農業や雪対策と連携した治水対策の推進～

○令和2年7月豪雨により甚大な被害が発生した最上川水系では、河川整備に併せ、地域の主産業（農業等）や豪雪地域などの地域特性を踏まえた農地・農業水利施設の活用や雪対策と連携した高床化などによる対策を組み合わせた流域治水を推進することで、令和2年7月豪雨<中上流部で戦後最大>及び昭和44年洪水(低気圧)<下流部で戦後最大>と同規模の洪水に対して、国管理区間での氾濫を防止するとともに流域での浸水被害の軽減を図ります。



山形県



■被害対象を減少させるための対策
 ○氾濫域での対策
 ・災害リスクを考慮した立地適正化計画の作成及び居住誘導
 ・土地利用規制・誘導(災害危険区域等)
 ・家屋移転、かさ上げ補助制度の創設
 ・雪対策と連携した氾濫被害の軽減(高床住宅等)

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
 ○河川区域での対策
 ・河道掘削、堤防整備、分水路整備、遊水地改良等
 ○集水域での対策
 ・砂防堰堤等の整備
 ・雨水幹線の整備、貯留管
 ・利水ダム等25ダムにおける事前放流等の実施、体制構築(関係者:国、山形県、東北電力(株)、土地改良区など)
 ・森林整備・治山対策・水田貯留(田んぼダム)
 ・農業用排水機場等の整備
 ・下水道施設(処理場等)の耐水化

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
 ○氾濫域での対策
 ・水害リスク空白域の解消
 ・危機管理型水位計の設置
 ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
 ・R2.7出水の課題を受けたタイムラインの改善
 ・流域自治体との洪水対応演習
 ・講習会等によるマイ・タイムライン普及促進
 ・メディアと連携による洪水情報の提供
 ・まるごとまちごとハザードマップの促進
 ・広域連携による避難体制の強化
 ・民間企業と連携した避難体制の強化
 ・市町村庁舎等防災拠点の機能確保
 ・水防拠点の拡張・増設
 ・河道掘削土を活用した水防災拠点(兼避難場所)の整備

災害リスクを考慮した立地適正化計画の作成及び居住誘導
 (山形市、赤松市、鶴岡市、酒田市、上市市、長井市、天童市、尾花沢市、南陽市、中山町、白根町)

災害リスクを考慮した立地適正化計画の作成及び居住誘導
 (山形市、赤松市、鶴岡市、酒田市、上市市、長井市、天童市、尾花沢市、南陽市、中山町、白根町)

※対策事業の代表箇所を旗掲げしている。
 ※関係機関の取組内容については、「位置図(詳細版)」P4-6及び「市町村の実情に応じた取り組み」P60-69を参照下さい。



凡例

- 堤防整備
- - - 堤防強化
- 河道掘削
- 令和2年7月豪雨浸水範囲
- 浸水想定範囲(昭和42年8月洪水等と同規模想定)
- ◻ 大臣管理区間

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。